

学報

2014年 5月 Vol.681



平成26年度入学式（4月7日）

平成26年度岐阜大学入学式及び岐阜大学大学院入学式	1
平成26年度岐阜大学大学院連合農学研究科・同連合獣医学研究科入学式	3
インドネシアのアンダラス大学－岐阜大学合同セミナーを開催	4
「留学生センター日本社会文化プログラム及び日本語研修コース（集中コース）」開講式を開催	5
応用生物科学部教育活性化プログラム「酒と食の文化の実践的理解－岐阜大酒プロジェクト」 醸造成果発表会・利き酒会を開催	7
JICAを通じた東ティモール大学工学部に係る協力プロジェクト報告会を実施	8
薬品管理支援システム取扱説明会を開催	9
マレーシアの大学生訪日団26名が本学を訪問	10
国際交流会館4月入居者の歓迎会を開催	11
平成26年度寒剤・高圧ガス取扱作業員に対する安全衛生教育講習会を開催	12
海外留学フェアを開催	12
駐日ハンガリー特命全権大使セルダヘイ・イシュトヴァーン閣下が本学を訪問	13
学位授与	14
平成26年春の生存者叙勲－本学関係者3名が受章－	14
産学連携の実施状況	15
外国人研究者の受け入れ	15
平成26年度入試（秋季入学）募集要項	16
平成27年度入試募集要項	18
諸会議	21
主要日誌	22
人事異動	《学内限定》23

平成26年度岐阜大学入学式及び岐阜大学大学院入学式

岐阜大学入学式を、4月7日（月）10時30分から、また岐阜大学大学院入学式を、同日9時15分から、それぞれ長良川国際会議場において行った。

学部入学生への告辞で森脇学長は、「岐阜大学は「学び、究め、貢献する」人材を育てる場です。特に新入生諸君には、どのような分野、対象であれ「貢献できる人材になる」という志を抱いていただきたいと願います」と新入生を激励した。

入学者数は、次のとおり。



【学部】

教育学部	263名		
地域科学部	108名	地域科学部3年次編入学	11名
医学部	188名	医学部看護学科3年次編入学	1名
工学部	566名	工学部3年次編入学	35名
応用生物科学部	199名	応用生物科学部3年次編入学	11名
		計	1,382名

【大学院】

教育学研究科修士課程	40名	医学系研究科博士後期課程	3名
教育学研究科教職大学院課程	17名	工学研究科博士前期課程	319名
地域科学研究科修士課程	17名	工学研究科博士後期課程	16名
医学系研究科修士課程	2名	応用生物科学研究科修士課程	95名
医学系研究科博士前期課程	14名	連合創薬医療情報研究科博士課程	6名
医学系研究科博士課程	33名		
		計	562名

平成26年度岐阜大学入学式 学長告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本日、1,382名の平成26年度入学者をキャンパスに迎えることは、私どもにとってこれ以上ない喜びであり、岐阜大学教職員を代表して心から歓迎します。入学の喜びと勉学の意欲に燃える皆さんのフレッシュさを私どもも頂戴し、一緒に新たな勉学の場につくことができると嬉しい気持ちで一杯です。また、この場をお借りして、今日まで皆さんを支えて下さった保護者の皆様、諸先輩方にも衷心よりお祝い申し上げたいと思います。

さて、告辞を始めるに当たりまず岐阜大学の自己紹介を申し上げたいと思います。とは言いましても、皆さんはすでに入試情報誌やホームページで岐阜大学のことは十分ご承知かと思えます。そこで、今日はそういう情報源からは十分なアプローチが難しいような、ただし私自身にとっては宝物のような岐阜大学の成果

を2つだけお見せします。

これはご存じの方も多と思います。青いバラです。サントリーによって産業化されていますが、これをお作りになったのは、今、壇上にご出席で、後ほどご紹介もあります応用生物科学部学部長の福井先生です。岐阜大学が誇る研究業績は本当に沢山ありますが、その中でも最も美しい成果です。

また、岐阜市には大規模な博物館から本当に洪い美術館まで、分野で言うと美術、工芸から、伝統芸能まで様々な施設、サービスが整っています。東京、京都は別格として、今の日本国内では有数の都市と言えるかも知れません。画面にはそのうちの一つの案内を映しています。企画の大変優れた美術館ですが、保護者各位向けの観光案内ではありません。3月で終了したのが残念ですが、ご覧頂きたいのは上の絵で、絵がお好きな方はお心当たりがあるかも知れません。奥村氏のマイルド・アニマル・シリーズです。私ども岐阜大学教育学部美術工芸科1995年卒業生で、現在では人気



画家でいらっしゃる。ほかにもご紹介したい事項や人物は沢山御座いますが、今回はこの辺りまでとし、本題に移ります。

岐阜大学は「人が育つ場所」です。私ども側から申し上げますと人を育てる場所です。ではどういう人材を育てたいのか？「学び、究め、貢献する」ことができる人材です。「学び、究め」は容易にご理解頂けると思います。強調したいのは「貢献」です。地域貢献という言葉がすぐ浮かぶかと存じますが、私ども岐阜大学の理念における「地域貢献」は、たとえば県や市、中部地区にとどまるものではなく、全国、さらにはグローバルな貢献を視野に入れたものです。また単に教職員、学生の側から貢献を言うのではなく、それぞれ、貢献する場における需要に対応したものでなければなりません。教職員、学生が一体となって日本の、世界の要望にそぐう「学び、究め」を行う、そのためには学外へも出て行くことが必要かと思えます。また特に新入生諸君には、どのような分野、対象であれ「貢献できる人材になる」という志を抱いて頂きたいと願います。

また、勉強の仕方のもこれまでとは全く違うこともまぎれなく認識して下さい。高校までは学校でした。今日からは大学です。これまででは授業でした。今日からは講義です。諸君もこれまででは生徒でした。今日からは学生です。ではどこが違うのか。これから諸君が学ぶのは既存の学問体系に加え、教授陣が個別に血の出るような努力を重ね築いてきた、個性的な自然科学体系であり、人文科学体系であり、社会科学体系です。諸君はそれらを学んだ上で、自分自身の科学体系を独自に構築していく、これが大学での勉強になります。

もう一つ申し上げておきたいことは、大学における勉学は自分の責任において社会人としてなす行動でもあると言うことです。大学の新生としてキャンパスに入った段階で、諸君はすでに gentleman であり lady です。私どもはもちろん、社会はそういう目で見、また期待をします。大学という社会で諸君は lady あるいは gentleman であるべく、あらゆるチャンスをとら

え、努力を積み重ねていってほしいと思います。

最後に私ども自身の覚悟も申し上げます。岐阜大学は「学び、究め、貢献する」人材を育てる場です。教職員自身も常に自分がそうなるべく、新入生諸君とともに努力を重ねるのは当然と私は考えます。ともによき大学人であるべく手を携えて進んでいきましょう。

今日からのキャンパスライフを大いに充実したものと、また楽しんで下さいと申し上げ、告辞といたします。

平成26年度岐阜大学大学院入学式 学長告辞

岐阜大学大学院へのご入学おめでとうございます。本日、562名の平成26年度大学院入学者を迎えることは、私どもにとってこれ以上ない喜びであり、岐阜大学教職員を代表して心から歓迎します。さらにこの場をお借りして、大学院進学に至るまで皆さんを支えて来て下さった保護者の皆様、諸先輩方にも衷心よりお祝い申し上げます。

さて、岐阜大学には5学部の大学院前期課程、2学部の大学院後期課程に加え、岐阜大学を基幹校とする3つの連合大学院があります。連合大学院のうち本日は岐阜薬科大学と構成される連合創薬医療情報研究科入学の皆さんが、教職大学院入学の社会人の皆さんとともに出席されています。この為、勝野岐阜薬科大学長もご列席下さっています。

私ども岐阜大学は「人が育つ場所」を謳っています。私どもの側から申し上げますと人を育てる場所です。ではどういう人材を大学院で育てたいのか？

「学び、究め、貢献する」ことができる人材です。強調したいのは「貢献」です。地域貢献という言葉がすぐ浮かぶかと存じますが、私ども岐阜大学の理念における「地域貢献」はたとえば県や市、中部地区にとどまるものではなく、全国、さらにはグローバルな貢献を視野に入れたものです。また何らかの要請を受けて大学院に進学された入学者も少なくありません。そのような方は特にそれぞれが所属される場における需要に対応した貢献ができる高度職業人として大学院を修了されることがあらかじめ期待されています。大学院入学者は学卒とはまた異なった高度機能が要求されているわけで、「学び、究める」内容もおのずから到達目標が規定されるものと思います。

私自身が身近に経験した友人を例にお話ししましょう。彼は某大学の農学部から修士課程に進学、バイオの化学合成と植物生命現象の基礎をしっかりと学びました。修了後、某企業に就職、農薬合成の研究所に配属されました。彼はその後、博士課程を社会人大学院生

として修了，40歳を過ぎてブドウ栽培とジャガイモ栽培に用いる農薬の創薬に成功，50歳前後は月に2～3回それをもって海外出張というビジネスマンとして大活躍，現在は研究所に戻り後進の指導に当たっています。大学院での学習がその後に直結した大変幸せな例ですが，ここで学び取ってほしいことは，勉強の成果が大学院卒業時にすぐ出るものではなく，社会貢献として還元できるまでには大学院修了から20年くらいはかかるということです。また高度職業人として将来生きていくうえで，大学院では何を身に付けておくかも，十分考えて下さい。私共岐阜大学の教職員は何時でもそのような相談に応じるべく用意が出来ているつもりです。

ただし，一方で，ノーベル賞級の研究成果が多くは

30歳前後で出ていることも事実です。研究者を駆り立てるのは，どのような分野であれ，夢のような発想です。そのような夢が自然科学，社会科学の様々な分野でブレイクスルーを生んできました。先に申し上げたこととは相いれないと感じられる方がいるかと思いますが，どのような勉強であれ持続こそが力です。持続をもたらすモチベーションを生む要因の一つが夢です。高度職業人として自分の将来をしっかりと見定め，またしっかりと夢を持ち続ける，そんな大学院生として岐阜大学を楽しみ，かつ利用して頂ければと思います。

今日から諸君と一緒に送る大学生活を大いに楽しみにしていると申し上げ，学長告示といたします。

平成26年度岐阜大学大学院連合農学研究科・同連合獣医学研究科入学式

本学が設置大学となっている両研究科の入学式を，4月11日（金）14時から本学講堂において挙行し，連合農学研究科博士課程 18名，連合獣医学研究科博士課程 20名，計38名の新入生を迎えた。



学長告辞



入学生代表宣誓

インドネシアのアンダラス大学－岐阜大学合同セミナーを開催

平成26年4月2日（水）～6日（日）、本学工学部にて"Joint seminar of Andalas University and Gifu University -13 years of collaboration: the progress and the future-"「アンダラス大学－岐阜大学合同セミナー 全体テーマ：13年間のコラボレーション：進捗状況と将来」（主催：岐阜大学工学部，共催：岐阜大学国際戦略本部，後援：岐阜大学工業倶楽部，岐阜観光コンベンション協会）を開催した。

本学は、インドネシア共和国（以下、インドネシア）のアンダラス大学（Universitas Andalas / Andalas University）と平成13年に学術交流協定を結んでいる。この協定に基づき、両大学の教員、大学院生の研究成果を発表する合同セミナーを開催した。両大学の教員・学生間の貴重な研究・教育交流の機会に位置づけられることはもとより、13年間にわたる両校の交流を振り返り、その実績をまとめ、将来の学術交流について検討することも目的としている。

招待講演3件，一般講演13件の発表があった。一般講演は大学院生の発表が中心となり，英語で発表するため，岐阜大学生にとって国際的なプレゼンテーション能力を高める貴重な機会となった。各講演後，活発な意見交換が行われた。セミナー終了後，森脇久隆学長より閉会の挨拶があり，記念品が授与された。

4日は岐阜市観光，5日に高山・白川郷エクスカーション，6日は道三まつりに参加し，盛況のうちに当合同セミナーを終了することができた。この合同セミナー開催により，今後も両大学の学術交流の益々の発展が大いに期待される。



記念撮影



講演の様子



森脇学長から記念品授与

「留学生センター日本社会文化プログラム及び 日本語研修コース（集中コース）」開講式を開催

留学生センターでは、4月10日（木）、研究推進・社会連携機構インキュベーション施設において、日本社会文化プログラム等の開講式を開催した。

「日本社会文化プログラム」は、留学生センター所属の交流協定大学の交換留学生を対象として、日本の社会や文化に関する知識の習得を目的とするプログラムである。

「日本語研修コース」は、国費留学生、大学院生、研究生、交換留学生等を対象とした1学期間の日本語授業で、集中的に日本語を学ぶ「集中コース」と、授業の少ない「一般コース」がある。

開講式には、この4月に本学に入学した日本社会文化プログラム留学生3名のほか、日本語研修コース（集中コース）を受講する国費留学生、研究生、院生等21名、また、森脇久隆学長、鈴木文昭理事（国際・広報担当）らが出席した。

最初に、森脇学長から、留学生に向け歓迎の言葉が述べられ、続いて各留学生の紹介があり、日本社会文化プログラム留学生を代表して、電子科技大学（中国）からの交換留学生のトウ・インコさん、日本語研修コース受講者を代表して、交換留学生であるシドニー工科大学（オーストラリア）のヒル・ジュリエット・マリーさん（地域科学部所属）、国費留学生のイリーナ・メルニコワさん（ロシア、流域圏科学研究センター研究生）が、日本語または英語で、岐阜大学に入学した喜びや勉学に対する抱負についてスピーチをした。

最後に、竹内豊英留学生センター長から挨拶があり、4月に新たに就任したばかりで、フレッシュャーズとして共に頑張っていこうとの激励の言葉を送った。

式終了後は出席者全員で記念写真を撮り、その後森脇学長と鈴木理事は、竹内センター長の挨拶の中で紹介のあった留学生センター交流ラウンジに立ち寄った。交流ラウンジは、平成24年4月に留学生センター内に開設されたもので、日本語自学学習・チューターによる日本語学習支援、留学生と日本人との交流や情報収集等多目的に使用されている。



森脇学長歓迎の挨拶



竹内留学生センター長挨拶



トウ インコさん



イリーナ メルニコワさん



出席者全員で記念撮影



留学生センター交流ラウンジにて

応用生物科学部教育活性化プログラム「酒と食の文化の実践的理解
 -岐阜大酒プロジェクト」醸造成果発表会・利き酒会を開催

応用生物科学部は、昨年度から希望者を対象に応用生物科学部の基礎的な要素を実践する教育活性化プログラム「酒と食の文化の実践的理解-岐阜大酒プロジェクト」を行っている。4月16日（水）に、初年度の成果として、学生が丹精込めて仕込んだ「岐阜大酒」の醸造成果発表会と利き酒会を開催した。

日本の誇る國酒「清酒」は、その醸造過程において応用生物科学部の持つ様々な基礎的な要素を必要とする。応用生物科学部では、その清酒醸造過程において、学部を持つ技術を活用し、本学オリジナルの「米」、「水」、そして「酵母」を用いた「岐阜大酒」の醸造を目指すことで、応用生物科学を総合的に学ぶのみならず、日本が育んだ伝統技術と文化に触れ、國酒からみる地域文化と食の文化の実践的理解を目指した教育プログラムを立ち上げた。

今回、試飲した「岐阜大酒」は、初年度の活動成果として、本学柳戸農場で収穫した米「ハツシモ」、本学の美味しい「地下水」、そして学生が自ら岐阜地域から採集した「岐阜酵母」を使って実際に醸造したもの。

醸造成果発表会では、学生が、酵母採集から、醸造の過程、そして完成までの流れを成果発表した。

利き酒会では、採集した酵母9種類を使い、醸造された9種類の「岐阜大酒」と市販の日本酒で使用される標準酵母を使用し、醸造されたお酒の計10種類を試飲した。試飲した学生・教職員からは、「9種類とも全然味が違って驚いた」、「酸味があるものから、甘いものまであり、標準酵母で醸造したお酒よりもおいしいものがあった」などの意見が聞かれた。利き酒会の最後に、それぞれのお酒を評価し、最優秀酵母とワースト酵母の表彰を行った。最優秀賞に選ばれた酵母は、郡上の土から採集した酵母で、「香りが良く、なめらかで、日本酒らしいお酒だった」という意見があった。最後に、森脇学長から「おいしいお酒もあり、驚いた。今後、より良い教育プログラムになっていくことを期待します」と話し、閉会した。



学生による成果発表



最優秀酵母を採集した学生への表彰



利き酒会の様子

JICAを通じた東ティモール大学工学部に係る協力プロジェクト報告会を実施

4月16日（水）、本学工学部の吉田准教授が、森脇学長、鈴木理事（国際・広報担当）及び福士理事（学術研究・情報担当）に、「東ティモール大学工学部支援プロジェクト」（協力期間：2006年4月～2010年3月）及び同プロジェクトの第2フェーズである現プロジェクト「東ティモール大学工学部能力向上プロジェクト」（協力期間：2011年2月～2015年1月終了予定）について、これまでの経緯、説明及び報告等を行った。

前者は、東ティモール大学工学部の教官の基礎的な指導能力を向上させること、後者は同大学工学部が適切な管理運営のもとで質の高い教育を提供できるようにすることが目的であり、本学は、吉田准教授を中心に、同プロジェクトの電気電子工学科の支援を担当している。

今回の報告会には、工学部副学部長の野々村教授、吉田准教授と共にこのプロジェクトを支援している工学部の王准教授及び高橋助教、そしてこれらのプロジェクトが縁となり本学工学研究科に在籍している東ティモールの留学生カンシオ氏（博士課程）及びアラウジョ氏（修士課程）も出席した。

吉田准教授による同プロジェクトの説明及び報告等の後、森脇学長、鈴木理事、福士理事らとともに、東ティモール大学の教育の現状や同プロジェクト支援状況について質問・提案等の活発な意見交換が行われ、今後、岐阜大学としてJICAプロジェクト等国際貢献事業への協力の在り方について、検討していくこととした。



JICA プロジェクト報告会の様子



プロジェクトについて質問する森脇学長

薬品管理支援システム取扱説明会を開催

本学では、毒劇物等の薬品を適切に管理するため薬品管理支援システムを導入している。毎年、学内で薬品を使用する教職員及び学生を対象に本システムの取扱説明会を開催しており、平成26年度も、4月16日、17日に開催し、述べ305名（教職員28名、学生277名）の参加があった。

当日は、清水安全衛生推進室長の挨拶の後、工学部の竹内教授、施設環境部職員及びシステム業者の関東化学(株)より、大学における薬品管理の重要性、管理方法及び本システムの使用方法について説明があった。

本学では、本システムを平成17年4月より運用を開始し、普及に努めてきた。薬品を使用しているほぼ全ての研究室が登録しており、薬品登録数は5万6千本を超えている。

この説明会を通して、薬品管理の重要性を再認識することができた。今後も、適切な薬品管理に努めていきたいと考えている。



清水安全衛生推進室長の挨拶



説明を聞く教職員及び学生

マレーシアの大学生訪日団26名が本学を訪問

4月18日（金）、日本政府が推進する青少年交流事業「JENESYS2.0」の一環として、マレーシアの大学生訪日団26名が本学を訪問した。同事業による本学訪問は、昨年度の地域科学部における学生交流に続き2回目であり、今年度は工学部において工学部学生、大学院生との交流を深めた。

当日は、六郷工学部長から歓迎の挨拶後、額副学部長から工学部の紹介が行われ、本学の出身国別留学生数は、マレーシアが2番目に多いことの説明があった。その後、野々村研究室（電気電子工学科 / 電気電子コース）、額副研究室（化学・生命工学科 / 物質科学コース）及び太陽光発電、バイオ工学に関するラボを見学し、工学部教員・学生から研究内容の説明が行われた。マレーシアの大学生からは、研究内容や実験装置に非常に興味をもって質問がされていた。

その後、工学部学生、大学院生30名が参加したグループディスカッションが行われ、工学部在籍のマレーシア留学生及び訪日団代表者それぞれの挨拶後、Lim Lee Wah（リム リーワ）准教授（化学・生命工学科）の進行により、マレーシアと日本の印象、趣味、将来自分の果たす役割について英語による意見交換を行った。マレーシアの大学生は、日本の大学生の学生生活（勉強、研究）など興味があり、また、工学部学生にとっては、マレーシアの大学生との交流を通じ、マレーシアの大学における学生生活をはじめ、マレーシアの文化を知ることができる良い機会となった。

引き続き行われたランチ交流会では、鈴木理事（国際・広報担当）からの挨拶、工学部学生の空手の余興、マレーシアの大学生全員による合唱の披露など終始和やかな雰囲気の中で懇談が続き、訪日団代表者から六郷工学部長へ記念品が手渡され、竹内留学生センター長の閉会の挨拶で終了となった。

本学への訪問は限られた時間であったが、マレーシアの大学生と工学部学生の親睦と相互理解を深めることができ、内容の濃い有意義なものとなった。



全員の記念撮影



本学学生との交流

国際交流会館 4 月入居者の歓迎会を開催

4月18日（金）午後5時半から、この4月から新たに岐阜大学国際交流会館に入居した外国人留学生の歓迎会が、午後5時半より国際交流会館多目的ホールで開催され、会館に入居している外国人留学生約50名が出席した。

本歓迎会は、国際交流会館チューター（4名）が学術国際部国際企画課留学生支援室の協力の下に企画したものの。彼らは国際交流会館に居住し、入居者である外国人留学生と生活を共にしながら、入居者の生活指導・生活相談を行うとともに修学上の諸問題の対応や国際交流会館の管理補助を行っている。また、留学生が楽しく過ごせるようにチューター同士が協力しながらいろいろな行事を計画している。

当日は、木村晴茂国際交流会館長から歓迎の挨拶があり、来賓として鈴木文昭理事（国際・広報担当）、竹内豊英留学生センター長、地域の国際交流団体「国際交流の輪∞黒野」の松井直樹様の紹介の後、国際交流会館主事のデイビッド・バーカー先生の乾杯で始まった。留学生たちは、会館チューターが準備した料理を食べながらおしゃべりに花を咲かせ交流を深めた。松井様からは留学生に真っ赤で大きなイチゴのプレゼントがあり、参加者全員で美味しくいただきながら、記念撮影やイス取りゲーム等で楽しい時間を過ごした。



全員で記念撮影



木村国際交流会館長の挨拶



お料理を前にニコリ



イス取りゲーム

平成26年度寒剤・高圧ガス取扱作業者に対する安全衛生教育講習会を開催

本学は、4月23日（水）、教職員、大学院修士課程の学生及び大学4年生を対象に、寒剤・高圧ガス取扱作業者に対する安全衛生教育講習会を実施した。

生命科学総合研究支援センター機器分析分野の近江靖則准教授及び応用生物科学部の西津貴久教授が、寒剤・高圧ガスを使用する作業の安全を確保する方法と、取扱作業者等に対する事故防止の方法を説明した。

今回で第4回目となる講習会の内容は、初めに寒剤・高圧ガスに関する基礎知識の習得を主眼とし、受講者全員が寒剤・高圧ガスの取扱について真剣に講習を受けていた。

また、今回の講習会から、工学部に新設された液化窒素タンクの設置に伴い、教職員及び学生への安全教育を行った。今回の講習会で学んだ知識を今後の実験・実習で活用して安全な実験環境を構築していく。



講話する近江准教授と受講者



会場の様子

海外留学フェアを開催

4月23日（水）、留学制度や海外体験に関する情報を提供し留学の促進を図ることを目的として、全学共通教育棟102教室にて海外留学フェアを開催し、新入学生を中心とした海外での活動に興味を持つ学生約100名の参加があった。

冒頭、鈴木理事（国際・広報担当）の挨拶の後、平成24年8月から平成25年5月までスウェーデンのルンド大学に交換留学した教育学部4年の武田憲人さんから、なぜスウェーデンへの留学をしたのかをはじめとした体験談が話された。引き続き、各協定大学との交換留学制度における募集時期や奨学金制度等制度全般についての説明がなされた後、長期休暇期間を利用して短期間に実施する予定である5つの海外派遣プログラムについて、各担当教員から紹介があった。フェアの終了後は、各プログラムの担当者と武田さんが会場に残り、参加学生からの個別相談に応じた。



スウェーデンでの体験談を話す武田さん

駐日ハンガリー特命全権大使セルダハイ・イシュトヴァーン閣下が本学を訪問

4月24日（木）、駐日ハンガリー特命全権大使セルダハイ・イシュトヴァーン閣下が、岐阜県ハンガリー友好協会の山田實紘会長及び瀨瀬春彦理事とともに本学を訪問し、森脇久隆学長、鈴木文昭理事（国際・広報担当）、竹内豊英留学生センター長及び嶋睦宏工学部教授（本学におけるパンノン大学連絡調整者）と懇談した。

今回の同大使の訪問は、上述のパンノン大学フリードラー学長による岐阜大学との交流を積極的に行いたいとの意向を伝えることが主な目的で、同協会の仲介により実現したものである。

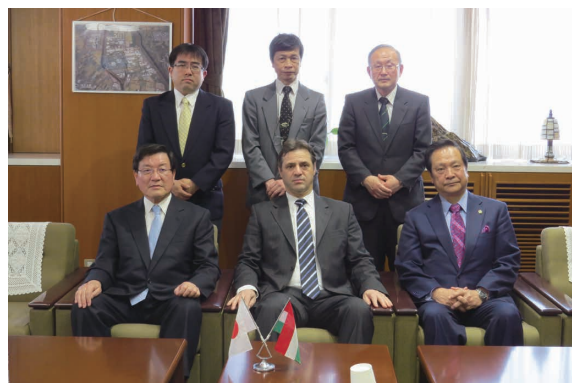
懇談では、パンノン大学が本学との交流促進を強く望んでいること、本学からの提案があれば受け入れる用意があることが交流案及び各種資料を下に伝えられた。また、本学の学生や研究者のパンノン大学への受入れにあたっては、ハンガリー政府による経済的支援制度が活用できるとの情報も提供された。

これを受けて、森脇学長は、本学が今後、これまで以上に国際展開に力をいれる方針の下、より多くの学生や研究者を海外へ派遣するため本格的に動き始めているところであり、パンノン大学ともぜひ活発に交流したいと述べた。また、鈴木理事からも、現在、パンノン大学を含めた本学の各学術交流協定大学に更なる交流促進の可能性について照会中であることが付け加えられた。

今回の懇談では、相互の研究者交流・学生交流の促進に向けての意思が確認され、そのためにどのような交流ができるか、またどのように進めていくかについて、活発な意見交換が行われた。そして、今後は、双方の担当者間で、更なる交流拡大の実現に向けた具体的な内容について検討することができるよう、同大使からパンノン大学長に伝えることとなり、両大学にとって大変有意義な方向付けとなる懇談となった。



懇談の様子



前列左から、森脇学長、セルダハイ駐日大使、
山田岐阜県ハンガリー友好協会会長

学位授与

学位の種類	学位記番号	氏名	学位授与年月日	学位論文名
博士（医学）	医博甲第954号	服部 泰輔	H26. 4. 16	LRH-1 heterozygous knockout mice are prone to mild obesity (LRH-1ヘテロノックアウトマウスは軽度の肥満をきたしやすい)
博士（医学）	医博甲第955号	山田 法顕	H26. 4. 16	Hyperbaric oxygenation therapy for crush injuries reduces the risk of complications (挫滅創傷に対する高気圧酸素治療の合併症の軽減効果)
博士（医学）	医博乙第1476号	服部 有博	H26. 4. 16	Elevated plasma GLP-1 levels and enhanced expression of cardiac GLP-1 receptors as markers of left ventricular systolic dysfunction: a cross-sectional study (左心室収縮機能障害マーカーとしての血漿 GLP-1濃度上昇と心筋 GLP-1受容体発現)

平成26年春の生存者叙勲 —本学関係者 3 名が受章—

平成26年春の生存者叙勲が4月29日に発表され、本学関係者では次の方が受章されました。

教育研究功労

瑞宝中綬章

一條 正雄 氏

(名誉教授, 元教育学部教授)



一條 正雄 氏



平井 克哉 氏

瑞宝中綬章

平井 克哉 氏

(名誉教授, 元農学部教授)

看護業務功労

瑞宝単光章

松波 登志子 氏

(元医学部附属病院看護部副看護部長)



松波 登志子 氏

産学連携の実施状況

○共同研究 (平成26年4月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
医学系研究科	藤 田 廣 志	メディア (株)
医学部附属病院	吉 田 和 弘	大鵬薬品工業 (株)
工 学 部	河 瀬 順 洋	(株) 豊田自動織機
〃	高 橋 紳 矢	(株) 日研化学研究所
〃	山 田 宏 尚	アイコクアルファ (株)
〃	〃	日立建機 (株)
〃	吉 田 弘 樹	サンメッセ (株)
応用生物科学部	北 川 均	日清ペットフード (株)
〃	長 岡 利	(株) 秋田屋本店
〃	早 川 享 志	サンエイ糖化 (株)
〃	光 永 徹	奥長良川名水 (株)
〃	矢 部 富 雄	(株) 秋田屋本店

○受託研究 (平成26年4月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
医学系研究科	森 田 啓 之	(独) 宇宙航空研究開発機構
工 学 部	王 志 剛	(株) 泰成工業
応用生物科学部	二 宮 茂	日本中央競馬会競走馬総合研究所

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏 名 (国 名)	所属・職名	期 間	研 究 題 目
応 用 生 物 科 学 部	Shimaa Sobhy Ghareb Rizk Sorour (エジプト)	カフルエルシェイク大学 講師	26. 4. 1 ~ 26. 9. 30	亜熱帯マラリア原虫ヒート・ショック・プロテインのバイオインフォマテックス研究
〃	Osama Mohamed Abas Mohamed Moustafa (エジプト)	アレクサンドリア大学 アシスタント講師	26. 4. 1 ~ 28. 3. 31	ウマヘルペスウイルスの病原性に関する研究
〃	Emad Wadeed Ghazi (エジプト)	カフルエルシェイク大学 講師	26. 4. 21 ~ 26. 10. 20	消化管の炎症に対する各種抗炎症剤の効果
連合創薬医療 情報研究科	Mohamed Mohamed Abdel Daim (エジプト)	スエズ運河大学 助教	26. 4. 1 ~ 26. 9. 30	希少難病治療薬開発に関する研究

平成26年度秋季岐阜大学大学院工学研究科博士後期課程学生募集

I 募集人員

専攻名	社会人	外国人留学生
生産開発システム工学専攻	若干人	若干人
物質工学専攻	若干人	若干人
電子情報システム工学専攻	若干人	若干人
環境エネルギーシステム専攻	若干人	若干人

II 出願期間

試験種別	期 間
社 会 人	平成26年 6 月19日 (木)・平成26年 6 月20日 (金)
外国人留学生	

III 入試期日

試験種別	期 日
社 会 人	平成26年 7 月 5 日 (土)
外国人留学生	

IV 合格者発表

試験種別	期 日
社 会 人	平成26年 7 月14日 (月) 12時
外国人留学生	

平成26年度岐阜大学大学院連合農学研究科（後期3年だけの博士課程）
外国人留学生特別コース（秋季入学）学生募集

I 募集人員

専攻名	募集人員
生物生産科学	若干人
生物環境科学	
生物資源科学	

II 出願期間

専攻名	期間
生物生産科学	募集要項公表開始～平成26年5月30日（金）
生物環境科学	
生物資源科学	

III 入試期日

専攻名	期日
生物生産科学	平成26年6月16日（月）～平成26年6月30日（月）
生物環境科学	
生物資源科学	

IV 合格者発表

専攻名	期日
生物生産科学	平成26年7月中旬
生物環境科学	
生物資源科学	

平成27年度岐阜大学工学部3年次編入学学生募集

I 募集人員

学科名		入学定員	推薦入試	一般入試
社会基盤工学科	環境コース	} 30人	} 約20人	} 約10人
	防災コース			
機械工学科	機械コース			
	知能機械コース			
化学・生命工学科	物質化学コース			
	生命化学コース			
電気電子・情報工学科	電気電子コース			
	情報コース			
	応用物理コース			

II 出願期間

試験種別	期 間
推 薦 入 試	平成26年 5月12日(月)～平成26年 5月14日(水)
一 般 入 試	平成26年 6月16日(月)～平成26年 6月18日(水)

III 入試期日

試験種別	期 日
推 薦 入 試	平成26年 6月7日(土)(面接)
一 般 入 試	平成26年 6月28日(土)(学力試験・面接)

IV 合格者発表

試験種別	期 日
推 薦 入 試	平成26年 6月13日(金) 10時
一 般 入 試	平成26年 7月14日(月) 10時

平成27年度岐阜大学応用生物科学部3年次編入学学生募集

I 募集人員

課程名	募集人員
応用生命科学課程	5人
生産環境科学課程	5人

II 出願期間

課程名	期 間
応用生命科学課程 生産環境科学課程	平成26年 6月6日(金)～平成26年 6月10日(火)

III 入試期日

課程名	期 日
応用生命科学課程	平成26年 6月24日(火)(小論文・面接)
生産環境科学課程	平成26年 6月25日(水)(面接予備日)

IV 合格者発表

課程名	期 日
応用生命科学課程 生産環境科学課程	平成26年 7月18日(金) 10時

平成27年度岐阜大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集

I 募集人員

専攻名	一般	推薦		社会人	外国人留学生	社会人プログラム
		学内	学外			
社会基盤工学専攻	15人程度	14人程度		若干人	若干人	2人
機械システム工学専攻	20人程度	14人程度		若干人	若干人	2人
応用化学専攻	26人程度		若干人	若干人	若干人	2人
電気電子工学専攻	15人程度	14人程度		若干人	若干人	2人
生命工学専攻	29人程度		若干人	若干人	若干人	2人
応用情報学専攻	17人程度	16人程度		若干人	若干人	2人
機能材料工学専攻	16人程度	10人程度		若干人	若干人	2人
人間情報システム工学専攻	14人程度	10人程度		若干人	若干人	2人
数理デザイン工学専攻	13人程度		若干人	若干人	若干人	2人
環境エネルギーシステム専攻	24人程度	8人程度		若干人	若干人	2人

II 出願期間

試験種別	期 間
推薦	平成26年 6月19日 (木)・平成26年 6月20日 (金)
一般	平成26年 7月16日 (水) ~ 平成26年 7月18日 (金)
社会人	
外国人留学生	
社会人プログラム	

III 入試期日

試験種別	期 日
推薦	平成26年 7月 5日 (土)
一般	平成26年 8月27日 (水)・平成26年 8月28日 (木)
社会人	平成26年 8月28日 (木)
外国人留学生	平成26年 8月27日 (水)・平成26年 8月28日 (木)
社会人プログラム	平成26年 8月28日 (木)

IV 合格者発表

試験種別	期 日
推薦	平成26年 7月14日 (月) 12時
一般	平成26年 9月 9日 (火) 12時
社会人	
外国人留学生	
社会人プログラム	

平成27年度岐阜大学大学院工学研究科博士後期課程学生募集

I 募集人員

専攻名	一般	社会人	外国人留学生
生産開発システム工学専攻	7人	若干人	若干人
物質工学専攻	3人	若干人	若干人
電子情報システム工学専攻	4人	若干人	若干人
環境エネルギーシステム専攻	13人	若干人	若干人

II 出願期間

試験種別	期 間
一 般	平成26年 7月16日（水）～ 平成26年 7月18日（金）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

III 入試期日

試験種別	期 日
一 般	平成26年 8月29日（金）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

IV 合格者発表

試験種別	期 日
一 般	平成26年 9月 9日（火）12時
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

諸会議

<p>◇ 第439回役員会 4月3日(木) (報告事項のみ)</p> <p>◇ 第1回授業編成専門委員会 4月8日(火) 議 題 1. 平成26年度授業編成専門委員会の開催日について 2. 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 3. 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について 4. 特別聴講学生の受入れについて 5. 平成25年度後学期工学部定期試験における不正行為に伴う単位無効について</p> <p>◇ 第1回部局長・部長会 4月10日(木) (連絡事項のみ)</p> <p>◇ 第1回教学委員会 4月15日(火) 議 題 1. 教学委員会委員長代理について 2. 委員会の開催日について 3. 平成26年度前期の授業料免除に係る留年・修業年限超過者の取扱いについて 4. 学生表彰(学術研究活動表彰)について</p> <p>◇ 第440回役員会 4月17日(木) 議 題 1. 選択定年制における目標等の裁定について</p> <p>◇ 第124回教育研究評議会 4月17日(木) 議 題 1. 学長選考会議委員の選出について</p>	<p>2. 「国立大学法人岐阜大学評価室規程」の一部改正及び「国立大学法人岐阜大学評価業務実施要項」の制定について 3. 学長室の設置について 4. 岐阜大学運営組織規則の一部改正について</p> <p>◇ 第441回役員会 4月17日(木) 議 題 1. 「国立大学法人岐阜大学評価室規程」の一部改正及び「国立大学法人岐阜大学評価業務実施要項」の制定について</p> <p>◇ 第1回入学試験専門委員会 4月23日(水) 議 題 1. 委員長代理について 2. 連合農学研究科, 連合獣医学研究科及び連合創薬医療情報研究科選出の委員について 3. 平成27年度入試以降の入学者選抜の検討スケジュール(案)について 4. 平成27年度入学者選抜試験における情報処理日程(案)について 5. 平成27年度入学者選抜に向けた入試広報(案)について</p> <p>◇ 第442回役員会 4月24日(木) 議 題 1. 教育職員の人事(工学部:助教1)について 2. 平成26年度会計監査人候補者の選定について</p> <p>◇ 第1回国際戦略本部会議 4月30日(水) 議 題 1. 副本部長等の選出について 2. 岐阜大学の国際化 action-plan について 3. 私費留学生の奨学金等に関する推薦方法の申合せの改正について</p>
--	---

主要日誌

月 日	行 事 名
4 / 1	工学部附属インフラマネジメント技術研究センター表札上掲式
2	インドネシアのアンダラス大学-岐阜大学合同セミナー（～6日まで）
3	第439回役員会
7	平成26年度岐阜大学入学式及び岐阜大学大学院入学式
8	第1回授業編成専門委員会 応援奨学生決定通知書交付式
9	看護学科・看護学専攻教授会議（医） 教授会・代議員会（工） 教授会（メディア）
10	第1回部局長・部長会 「留学生センター日本社会文化プログラム及び日本語研修コース（集中コース）」開講式
11	平成26年度岐阜大学大学院連合農学研究科・同連合獣医学研究科入学式
15	第1回教学委員会 研究科委員会（連創）
16	教授会・研究科委員会（教・地・応） 医学研究科・医学科教授会議（医） 応用生物科学部教育活性化プログラム「酒と食の文化の実践的理解-岐阜大酒プロジェクト」 醸造成果発表会・利き酒会 JICAを通じた東ティモール大学工学部に係る協力プロジェクト報告会 薬品管理支援システム取扱説明会（～17日まで）
17	第440回・第441回役員会 第124回教育研究評議会
18	代議員会（連農）
23	第1回入学試験専門委員会 教授会（流域・生命） 平成26年度寒剤・高圧ガス取扱作業員に対する安全衛生教育講習会 海外留学フェア
24	第442回役員会
25	代議委員会（連獣）
30	第1回国際戦略本部会議